

4 平成 29 年度 学校評価（目標設定）

	視点	4年間の目標 (平成28年度策定)	1年間の目標	取組の内容	
				具体的な方策	評価の観点
1	教育課程 学習指導	<p>〈一人ひとりの教育ニーズに応える教育活動を組み立てる〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援計画や個別教育計画の作成を通して、中心的な課題（ニーズ）を本人や保護者等と確認・共有する。 ・教育ニーズに応じた学習活動・学習環境を用意する。 	<p>個々の児童・生徒の中心的な課題（ニーズ）を教員間で共有し、出来そうなところに着目して教育活動を展開する。</p> <p>※伸びる芽教育の推進。</p>	<p>①教員間の情報共有、共通理解を図る機会を設定し、できそうなところに着目した教育活動を行う。</p> <p>②授業の振り返りを日常的にチームで行い、教育活動を実施できたか。</p>	<p>①教員間で児童生徒の課題を共有し、教育活動が展開できたか。</p> <p>②日常的な振り返りを授業に活かすことができたか。</p>
2	児童・生徒 指導・支援	<p>〈児童生徒一人ひとりの個別の課題に対する主体的な取り組みを支える〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や本人との「話し合い」を教育活動のベースにする。 ・児童・生徒自身が、達成感、充実感、自信、自尊心の高まりなどを感じられる支援を行う。 	<p>本人、保護者の意見を踏まえ、持っている力を十分に発揮できるよう指導にあたり、児童生徒の主体的な取り組みを引き出す。</p>	<p>①本人保護者とともに個別教育計画を作成し、教育活動に活かす。</p> <p>②学習内容や学習グループ等の工夫を行い、主体的な取り組みを引き出す。</p>	<p>①本人、保護者の意見や気持ちを聞く機会を設定することができたか。</p> <p>①-2 ①を個別教育計画に反映し、教育活動に活かすことができたか。</p> <p>②学習内容や学習グループ等の工夫により、主体的な取り組みを引き出したか。</p>
3	進路指導・ 支援	<p>〈次のステップへの道を拓き、自己選択・自己決定を支える〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童・生徒自身による自己選択・決定の場面設定をしていく。 ・保護者や関係機関と協力した移行支援を推進する。 	<p>移行支援を意識しながら、学校生活のあらゆる場面で児童・生徒の自己選択・自己決定の力を伸ばす。</p>	<p>①キャリア教育の観点から自己選択・自己決定を意識した学習活動に取り組む。</p>	<p>①「選ぶ機会」「決める機会」の場面設定ができたか。</p> <p>②自己選択・自己決定ができるような支援方法を工夫できたか。</p>

4	地域等との協働	<p>〈地域での学びと暮らしを支える役割を担う〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の支援教育、インクルーシブ教育を推進する。 ・特別支援学校としての専門的なノウハウを共有・蓄積し、広く提供する。 ・地域の生活・医療・仕事・教育等に関する相談支援体制に寄与する。 	<p>①相談機能の充実を図る。</p> <p>②地域と連携して、教育活動の充実を図る。</p>	<p>①地域の諸機関と連携し、支援先や相談活動の拡充を図る。</p> <p>②地域資源を活用した教育活動を実践する。</p> <p>③「交流及び共同学習」を積極的に進める。</p>	<p>①地域のニーズに合った相談支援ができたか。</p> <p>②地域資源を活用して教育活動に取り組めたか。</p> <p>③「交流及び共同学習」の推進が図れたか。</p>
5	学校管理 学校運営	<p>〈保護者・生徒・教員が協力して、安全で安心感のある学校を作る〉</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肢体不自由教育部門小・中学部・高等部の開設と知的障害教育部門高等部の拡充に伴い、児童・生徒や保護者の不安を解消し、安心して通学できるような開設準備をめざす。 ・じっくりと教育活動に取り組めるゆとり感のある校務活動に取り組んでいく。 	<p>①肢体不自由教育部門の開設と知的障害教育部門高等部の拡充に向け準備に取り組む。</p>	<p>①再編整備プロジェクト、拡大プロジェクトを計画的に実施し、組織的に取り組む。</p>	<p>①計画的、組織的に開設準備が進んだか。</p>